

別紙 2

異文化理解促進プログラム協力講師 自己紹介

※公開可能な内容のみ記載ください。



名前：DELAKORDA KAWASHIMA Tinka

職業：講師

所属：広島大学大学院人間社会科学研究科
(異文化間教育)

専門分野：社会学

出身国や外国で過ごした経験について教えてください：

私は、旧ユーゴスラビアのスロベニアで生まれました。スロベニアが 1991 年に独立したので、共産主義から民主主義への政治・経済的变化の中で育ちました。実家は、パン屋さんをやっていました。田舎の一軒家で常に犬と猫がそばにいました。当時は、学校よりもダンスの練習や国際試合に夢中でした。

広島の児童・生徒たちにどんなことを学んでほしいですか：

広島の児童・生徒たちには、将来の世代に平和のメッセージを伝えるという、地球規模での特別な使命があります。そのためには、文化や言語の異なる人々とコミュニケーションをとり、協力するための社会的スキルを身につける必要があります。

自己紹介を自由に記載してください（写真などもお使いください）：

スロベニア出身のティンカです。私の日本との縁は、リュブリャナ大学のアフリカ・アジア研究科にあります。日本と中国において、歴史・文化・言葉を学んだことにより、自分自身の考え方や世界観を見直し、深めることができました。現地で学ぶことによって、自分とは違う人々との信頼関係構築の重要性に気づきました。日本の大学院では、日本とヨーロッパの比較研究に基づく宗教社会学についての博士論文を作成しました。今は、広島大学のグローバル教員養成特定プログラムの講師として、異文化理解教育を進めるための理論や実践学習を開発しています。